ISSN 0915－5171

グリーントピックス

No.48

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場

2013年春季、胆振・日高地方でみられたクロマツの赤枯れ現象

道南地域では海岸林を造成する際、おもにクロマツが用いられてきました。そのクロマツの葉が2013年春、赤く枯れてしまうという現象が胆振・日高地方で発生しました（写真1）。海岸林だけでなく、海に近い市街地の庭木や道路沿いに街路樹として植えられたクロマツも例外ではありません。

襟裳岬から長万部までの沿岸の道路沿いで被害状況を調査した結果、海岸線が南～南西向きの地域ほど被害が顕著であることが分かりました（図1）。発達した低気圧が北海道を通過する際、胆振・日高地方では南～南西風が吹きやすくなります。そのため、赤枯れは潮風によってもたらされた可能性があります。

赤枯れが見られたクロマツはどうなるのでしょうか。海岸林造成地において個体を特定して2013年秋に生存状況を確認しました。その結果、樹冠の90%以上が赤枯れしないと枯死することはほとんどありませんでした（図2）。ただし、生き残った個体のなかには、衰退し、わずかに葉を着けているだけで今後の回復が困難と思われるものが多数ありました（写真2）。今後の推移を見守る必要があります。クロマツは本来、北海道にはなかった樹種です。すぐに樹種転換することは難しいですが、将来的には本来の海岸林の構成種であるカシワなどからなる海岸林への誘導が必要になるでしょう。

（環境G）

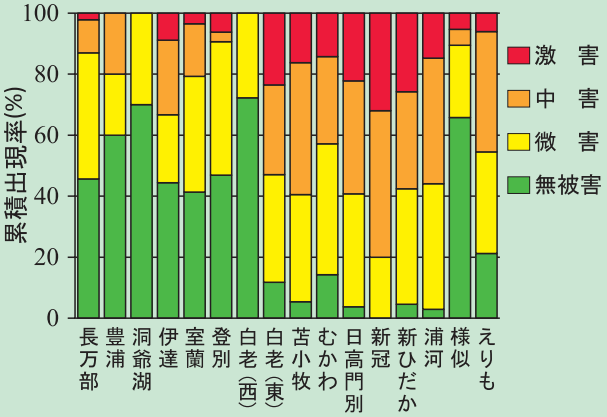

図1. 襟裳岬～長万部間における市町村ごとの被害分布
激害：樹冠の75%以上が赤枯れ、
中害：同25～75%、微害：同5～25%、無被害：5%未満.

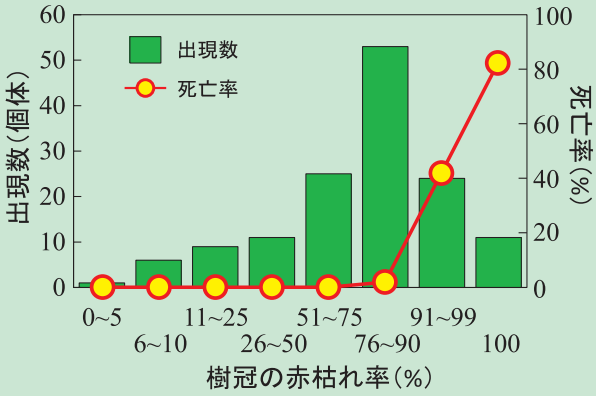

図2. 春季における樹冠の赤枯れ率分布と秋季までの死亡率

写真1. 苫小牧市勇払の海岸林造成地（2013年5月31日撮影）

写真2. 樹冠の一部だけが生き残った個体（2013年9月26日撮影）